

小学校

平成 17 年 度

教育研究員研究報告書

社	会
---	---

東京都教職員研修センター

目 次

I 小学校社会科部会全体研究主題について	
小学校社会科部会全体研究主題	2
1 主題設定の理由	2
2 「自らかかわろうとする児童」について	2
II 4年分科会	
4年分科会研究主題	3
1 4年分科会 主題設定の理由	3
2 4年分科会 研究の仮説	3
3 4年分科会 研究構想図	4
4 4年分科会 研究の内容	4
5 4年分科会 実践事例	5
6 4年分科会 成果と課題	9
III 5年分科会	
5年分科会研究主題	10
1 5年分科会 主題設定の理由	10
2 5年分科会 研究の仮説	10
3 5年分科会 研究構想図	11
4 5年分科会 研究の内容	12
5 5年分科会 実践事例	13
6 5年分科会 成果と課題	16
IV 6年分科会	
6年分科会研究主題	17
1 6年分科会 主題設定の理由	17
2 6年分科会 研究の仮説	17
3 6年分科会 研究構想図	18
4 6年分科会 研究の内容	19
5 6年分科会 実践事例	20
6 6年分科会 成果と課題	23
V 小学校社会科部会全体研究のまとめ	
1 研究の成果	24
2 研究の課題	24
3 今後の方向性	24

I 小学校社会科部会全体研究主題について

小学校社会科部会全体研究主題

**社会的事象の意味を考え、
自らかかわろうとする児童を育てる社会科学習**

1 主題設定の理由

今日、さまざまな青少年の問題行動や事件が頻発している現状がある。一方、ニートの増加や、若者の政治離れなど、社会に貢献し、よりよく生きる力の欠如を感じることもしばしばである。これらは、地域・社会に生きる人として、人やものとかかわる力が弱くなり、さまざまな人々や事象と望ましいかかわりができなくなっている現れではないかと考える。

小学校社会科の究極的な目標は、社会的事象の意味を理解し、深めていくことを通して「公民的資質の基礎を養う」ことである。社会科学習では、具体的な社会的事象を通して、児童自身を含めた人と人とのかかわりや、人と社会、自然、文化等とのかかわりを育て、児童に社会の一員としての自覚をもたせるとともに、社会に貢献しようとする意欲や態度を育てていかなければならない。また、現在の社会では多様な価値判断を求められる場面が多く、これからの社会を生きていく児童には、さまざまな社会的事象について当事者意識をもち、物事を多面的にとらえながら適切に判断する力を育てていくことも重要である。

児童は、少なからず社会とのかかわりをもって生活している。社会とのかかわりを「知っている」「聞いたことがある」といったかかわりから「これからの社会を考えていかなければならない」「一緒に行動したい」といった深いかかわりにしていきたい。そのために、実際の行動までには至らなくても、児童が後の学習での意思決定の判断材料の一つになるような社会科学習を展開していくことが必要であると考え。学習したことをその場限りで終わらせず、新たな判断基準となる「生きた知識」にすることが、これからの社会の在り方や自分がどうあるべきかを他人任せではなく、自分に関係があることとしてとらえ、自らかかわろうとする児童を育てていくことにつながると考え、上記研究主題を設定した。

2 「自らかかわろうとする児童」について

「自らかかわろうとする児童」とは、社会的事象を自分に関係がないこと（他人ごと）とするのではなく、自分にとって意味や価値があること（自分ごと）としてとらえ、その意味や価値について考える中で、具体的な実践を通して自らかかわろうとする児童ととらえた。

児童と地域社会との直接的なかかわりや、テレビや新聞等、メディアからの情報による間接的なかかわりを社会科学習のなかで「生きた知識」につなげ、児童にとってこれからの生活に役立つ価値判断の材料となり得る社会科学習を工夫していきたい。例えば、新潟県中越地震のニュースを見て、それまでに学習したことと結び付け、水田の被害の様子や雪による影響を考え、そこに生きる人々に思いを馳せることができるかということである。さらに自衛隊の災害援助の様子やボランティアの活動の様子を見て、行政機関の関連や自分には何ができるのか、自分が大人になったらどんなことができるのかを考えることができる児童を育てたい。

II 4年分科会

4年分科会研究主題

地域社会とのかかわりを深める児童を育てる社会科学習

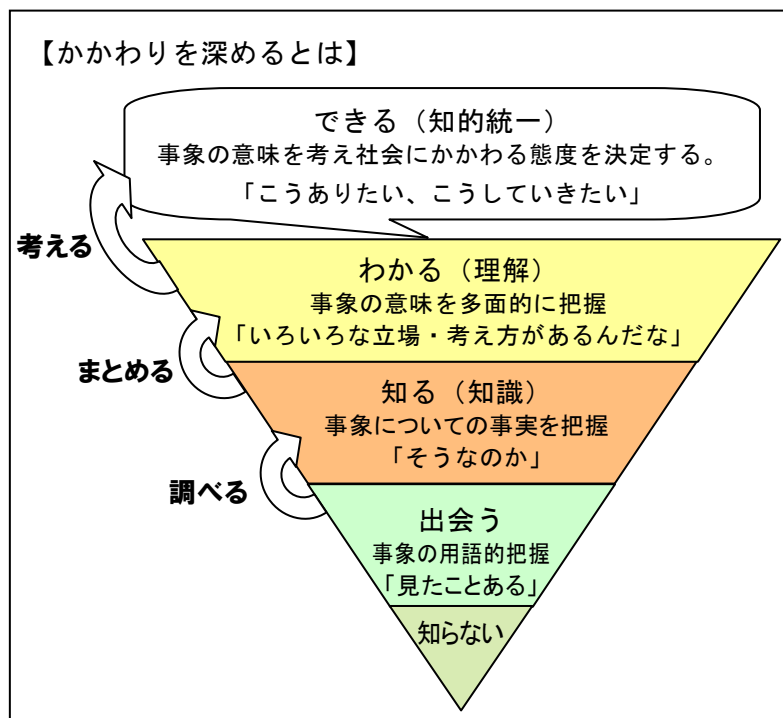
1 4年分科会 主題設定の理由

第3学年及び第4学年の社会科では、自分たちの住んでいる地域について見学したり取材したりして調べ、地域社会の社会的事象の特色や相互の関連などについて考える力を育て、地域社会の一員としての自覚や地域社会に対する誇りと愛情を育てることが学習指導要領の目標に記されている。そのためには、児童が地域社会の営みを具体的に調べ、自分とのかかわりを通して、その社会的事象の意味を考えられるようにすることが大切である。

しかし、4年生の社会科学習は、自分と直接かかわりのある「身近な地域」から「東京都」「地域の先人の働き」など、学習内容が空間的・時間的に広がりを見せる時期であり、自分と地域社会とのかかわりに気付くことが徐々に難しくなってくる。

また、本分科会で行った実態調査（平成17年6月実施 東京都内8校 4年児童 627名）によると、自分の考えをまとめたり、深めたりする活動に苦手意識をもっている児童が多いという傾向が見られた。これは、社会的事象を考える視点や、自分とのかかわりが児童にとって明確になっておらず、また解決の仕方が十分身に付いていないためではないかと考えられる。

そこで、本分科会では、このような問題点を改善するために、地域社会の人々の工夫や努力、願いに着目させる教材や、自分の考えを深めさせる学習活動の工夫が大切であると考えた。「人々の思いや願い」を考える学習活動を通して、社会的事象と自分とのかかわりや、地域社会の人々の工夫や努力によって自分たちの生活が支えられていることに気付かせたい。そのことにより、地域社会とのかかわりを深める児童が育つと考え、上記の研究主題を設定した。

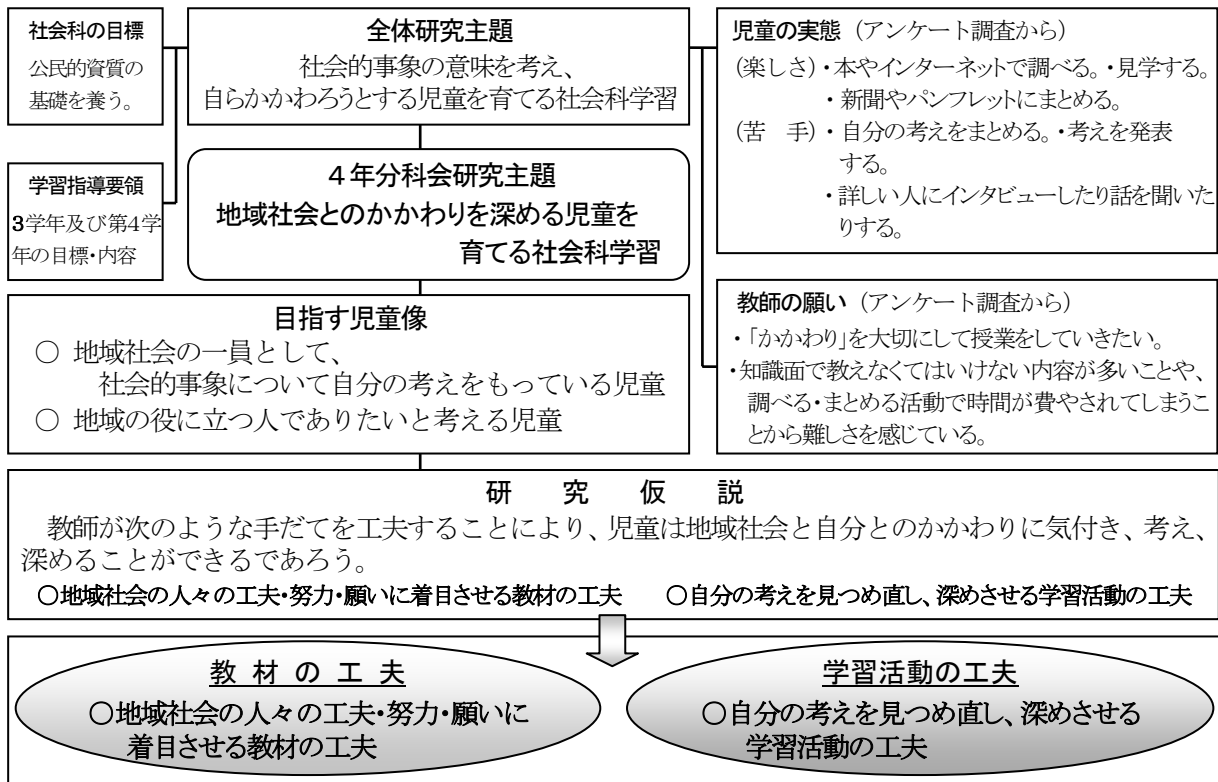


2 4年分科会 研究の仮説

教師が次のような手だてを工夫することにより、児童は地域社会と自分とのかかわりに気付き、考え、深めることができるであろう。

- 地域社会の人々の工夫・努力・願いに着目させる教材の工夫
- 自分の考えを見つめ直し、深めさせる学習活動の工夫

3 4年分科会 研究構想図



4 4年分科会 研究の内容

(1) 教材の工夫

ア かかわり教材分析シートの作成
単元毎に5つの観点から、地域社会とのかかわりを分析する。
・人々の「工夫・努力・苦心」「思い・願い」
・生活経験や既習事項との関連
・地理的な身近さ
・情報の得やすさ
・社会参加 (自分のできること)

イ 人々の「工夫・努力・苦心」「思い・願い」を読み取ることができる資料の選定・活用
・地域で工夫や努力をしている人々の姿や、思いや願い等の気持ちを考える根拠となる資料 (文・写真・絵) を選定し活用する。
・地域社会とのかかわりや社会的事象相互のかかわりを考えることができる資料を選定し、活用する。

ウ 人々の「工夫・努力・苦心」「思い・願い」を記入することができるワークシートの作成
・学習指導計画に、時間毎に取り上げる人々を示し、その人々の気持ちを書きこむことができるワークシートを作成する。
・児童の習熟に応じたワークシートを作成する。
(例) 最小限の枠組みだけ記入されたもの
吹き出しにヒントが書かれているもの
似顔絵や図、写真等のヒントカード など

(2) 学習活動の工夫

ア 人々の思いや願いを考える活動の設定

(ア) 吹き出しを活用する。
・人々の思いや願いを書きこむことができる吹き出しを活用する。(例: 書く・発表する・役割演技をするなど)

(イ) 学び合いの場を設定する。
・個人、小グループ、全体の学習形態をとり、互いの意見を交換する。
・自分の意見と友達の見解を色分けして記入する。

(ウ) 効果的な体験活動を取り入れる。
・得られる思いや願いを明確にして体験活動を設定する。
(例) フィールドワーク → (自分とのかかわり)
模擬体験 → (人々の工夫・苦心)
インタビュー → (人々の思い・願い)

イ 学習のまとめの段階における表現方法の工夫
児童と社会的事象、社会的事象相互の関連や共通点等を自分なりに表現し、自分と地域社会とのかかわりを考え、深めさせるために学習のまとめ方を工夫する。

【作成する際の支援】
○既習事項を振り返りながら作成させる。
○児童が作成したワークシートの吹き出しを活用させる。

【まとめ方の例】
○時系列に絵巻物や年表形式でまとめる。
○絵図・吹き出し・かかわりを示す矢印を使ってまとめる。

※ここでいう「人々」とは、「地域社会の社会的事象に携わる人々」である。

【かかわり教材分析シート例】

※地域の実態を考えて素材を記入し、教材・授業づくりに役立てる。

児童に身近な人々、ゲストティーチャー、インタビューが可能な人を記入する。	単元「ごみはどこへ行くの」の場合 ※選定の観点…研究の内容を参照			
	・ <u>ゲストティーチャーやインタビューが可能な人</u> ・ <u>見学可能な物や場所</u>			
授業で行う活動や、児童が主体的に取り組めそうな活動を想定して記入する。	困る(喜ぶ)人	自分・家族	まちに住む人々	区民 東京都民
	活躍する人(思い・願い)	収集する人	工場の人	埋立地の人 リサイクルをする人
	かかわりある物や場所	集積所	清掃工場	埋立地
	活動例	清掃工場・埋立地見学 ごみの分別 地域清掃		

5 4年分科会 実践事例

(1) 単元名 玉川上水をつくった人々(13時間扱い)

(2) 単元の目標

玉川上水を開いた玉川兄弟や分水を引いて武蔵野台地の発展に尽くした人々の働きに関心をもち、玉川上水の工事の工夫や、当時の人々の工夫や努力、願いについて資料等を活用して調べ、人々の働きや苦心について考える。また、生活の向上に尽くした先人の働きや苦心について考えることを通して、地域社会に対する誇りと愛情を育てる。

(3) 研究主題との関連

○地域社会の人々の工夫・努力・願いに着目させる教材の工夫

ア かかわり教材分析シートの作成…本単元では、研究の内容(P4下段)に示した5つの観点から、取り上げる人や物を考え、以下のように教材分析シートを作成した。特に、実際に見ることが可能な物やインタビューできる人を選定し、授業に取り入れた。

(※学習指導計画参照)

【かかわり教材分析シート「玉川上水をつくった人々」A小学校(市部)の場合】

《素材を選定する観点》	《生活経験・既習事項との関連》	《地理的な身近さ》	《情報の得やすさ》
	□《取り上げる人々》	◎《実際にインタビューなどが可能な人》	◆《実際に見ることが可能な物》
人・物・時間	玉川上水(過去)	武蔵野台地(過去)	現在
困った人	□水不足の江戸の人々	□水の乏しい土地の人々	
喜んだ人	□水が使える江戸の人々	□分水が引かれた人々	◎上水付近を散歩する人々
活躍・貢献した人	□玉川兄弟 □工事をする人々	□武蔵野台地に住む人々 □榎野藤右衛門、他	◎玉川上水を保全する人々 ◎玉川上水や分水を研究する人々
ゆかりのある(現在につながる)物	◆「上水記」他文献	◆A小学校付近の分水 ◆分水願 ◆短冊形の細長い地割り	◆たくさんの橋 ◆玉川上水のたて看板 ◆小金井桜
活動例 《社会参加》	・玉川上水を見学する ・玉川上水を清掃する	・分水を見学する ・くわしい人に話を聞く	・小金井桜を見に行く ・玉川兄弟に手紙を書く
※活動例は、実際に授業で行うことや、児童が自発的にできることを想定して考えた。			

イ 人々の「工夫・努力・苦心」「思い・願い」を読み取ることができる資料の作成…児童が理解しやすいように、難解な文章は現代風に改めて示した。ただし、原典を同時に示したり出

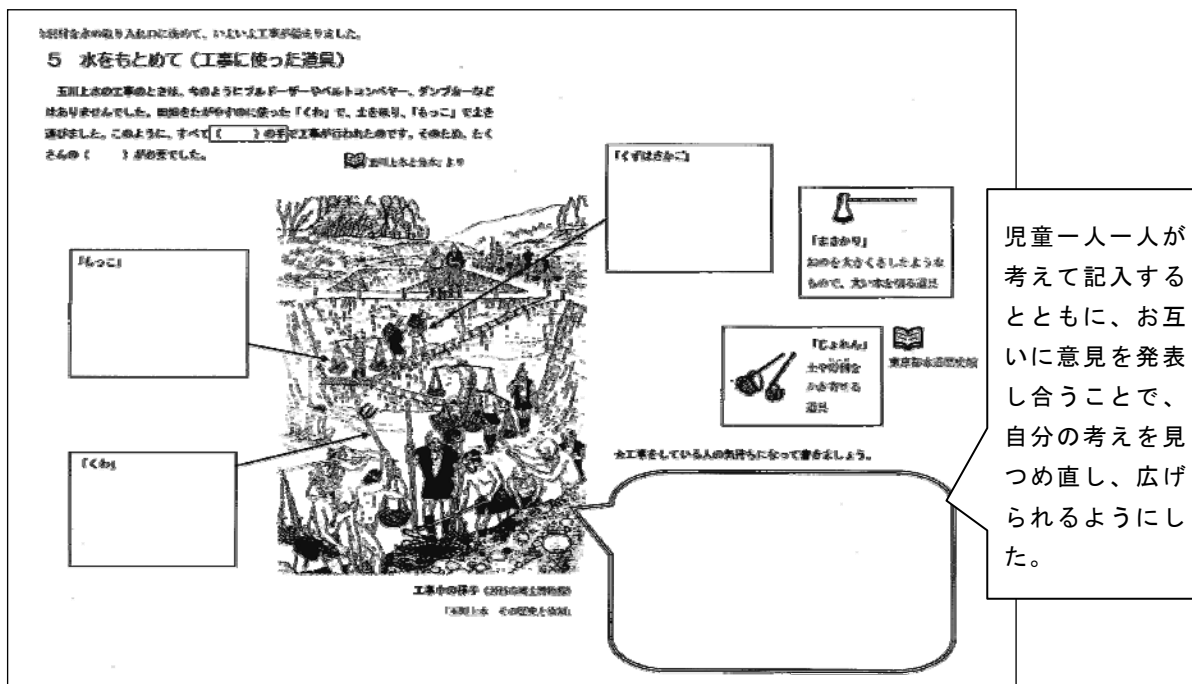
典を明らかにしたりするように努め、児童に歴史的事実を実感させるよう留意した。

ウ 人々の「工夫・努力・苦心」「思い・願い」を記入することができるワークシートの作成…教材化した資料をワークシートとして提示し、児童一人一人が人々の工夫や気持ちを考える上での資料として活用できるようにした。(※下資料参照)

○自分の考えを見つめ直し、深めさせる学習活動の工夫

ア 人々の思いや願いを考える活動の設定

(7) 吹き出しの活用…地域社会にかかわる人々の「工夫・努力・苦心」「思い・願い」を、その人々の立場に立って考えることができるよう、吹き出しを活用した。



【ワークシートの例】

(イ) 学び合いの場の設定…自分の考えをより深めることができるように、「気が付いたことや自分の考え」を発表し、友達の考えを知る学び合いの場を設定した。さらに、児童自身が考えの深まりを振り返ることができるように、自分と友達の考えを色分けして記述するようにした。このことにより、児童は学習を振り返る際に自分と友達の考えを区別することができ、自分の考えの深まりに気付くことができると考えた。

(ウ) 効果的な体験活動…資料の読み取りやワークシートへの記入だけでは、人々の思いや苦労を実感することは難しい。そこで、本単元では、体験を通して自分の考えを深めることができるよう、上水の見学やもっこを使った作業など体験活動を取り入れた。

イ 学習のまとめの段階における表現方法の工夫…社会的事象の相互の関連や、そこに携わる人々の思いや願いを吹き出しに書かせ、自分の考え、これから取り組みたいことや他にも調べてみたいことなどを「絵巻物」としてまとめさせた。その際、児童には、①「時代の区切りと順序を正しく表すこと」、②「人々の思いや願いを書くこと」、③「自分の考えを入れること」の3点を作成上の約束事として確認した。また、これまで学習したことを振り返ることができるようにワークシートを活用したり、児童の習熟の程度に応じて「人物カード」や「振り返りカード」を用意したりするなどの個に応じた手だてを講じた。

(4) 学習指導計画 (13時間)

【関】：関心・意欲・態度 【思】：思考・判断 【技】：技能・表現 【知】：知識・理解

時	ねらい	主な学習活動と内容 【体】体験活動 【学】学び合い活動	☆支援 <u>〇思いや願いを考えさせる人々</u>	評価 (Cは指導の手だて)
1	玉川上水が人によってつくられたものであることを知る。	〇玉川上水を歩き、気付いたことを話し合う。【体】 〇玉川上水が人によって作られたことを知り、なぜ作られたのかを予想する。【学】	☆近くの野川と比較させ、玉川上水が深いことや直線であることに気付かせる。	B：玉川上水に関心をもち、作られた理由を考えることができる。 【関】 C：人によって作られたことを強調して意欲を引き出す。
2 ・ 3	江戸の町で上水が必要になった理由に気付く。	〇江戸の変化を調べ、水不足が起こったことを知る。 〇玉川兄弟を中心とする人々が玉川上水をつくったことを知る。【学】 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">玉川兄弟を中心とする人々は、水を手に入れるために、どのようにして玉川上水をつくったのだろう。</div>	☆映像資料・グラフを用いて、江戸の様子をつかませる。 ☆江戸の町における飲料水の不足や、病気が流行したことに気付かせる。 〇飲み水がなくて困っている江戸の人々	B：人口増加のグラフ資料などから、その特徴を読み取ることができる。【技】 B：水不足で困っている江戸の人々の苦心や苦労を考えることができる。【思】 C：それぞれの資料を丁寧に読み取り関連付けるよう指導する。
4	水路を決めるために多くの工夫や努力があったことを考える。	〇水路をどのように決めたかを調べる。	☆土地の高低を利用したことに気付かせる。 〇2度の失敗をした玉川兄弟	B：土地の高低と水路の決定を関連付け、玉川兄弟の工夫や努力を考えることができる。【思】 C：等高線を辿り一番高いところを通っていることを確認させる。
5 ・ 6	多くの工夫や努力を経て玉川上水が四谷大木戸まで通ったことに気付く。	〇工事に使った道具について調べ、実際に体験する。【体】 〇43kmを8ヶ月で掘り終えるためにはどのような工夫をしたかを調べる。	☆すべて人の力で工事をしていたことに気付かせる。 〇工事をしている人々 ☆玉川上水の完成が急がれていたことに気付かせる。 〇水が流れたときの玉川兄弟	B：道具が未発達な中で、人々の工夫や努力によって工事が進められたことが分かる。【知】 B：玉川上水を短時間で完成させるための工夫や努力を考えることができる。【思】 C：すべて人の力で行われていたことを確認し、努力を考えさせる。
7	玉川上水が江戸の人々の生活向上に役立ったことについて調べる。	〇江戸市中の配水の仕方を調べる。 〇玉川上水によって江戸の人々の生活が向上したことを知る。	☆すべての工夫はきれいな水を送るためになされたことに気付かせる。 〇水を使えるようになった江戸の人々	B：絵や模型などを基にして江戸市中に水を清潔に送る工夫を調べることができる。【技】 C：きれいな水を送るための様々な工夫があることに着目させる。
8 ・ 9	武蔵野台地に新田を作るために、玉川上水から分水がひかれたことを知る。	〇武蔵野台地の様子を知り、玉川上水から分水がひかれたことを知る。 〇学区内の分水跡を歩く。【体】 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">玉川上水の水をもらうために、武蔵野の人々はどのような工夫をしたのだろう。</div>	☆何気なく通っていた道が分水だったことに気付かせる。 ☆分水を引く許可に数年の歳月をかけたことに注目させる。 〇水の乏しい武蔵野台地に住む人々	B：武蔵野台地の土地の構造や人々の生活に関心をもち、水の乏しい武蔵野台地に住む人々の気持ちをすすんで考えることができる。【関】 C：学校の目の前も分水の跡だったことを伝え、考えさせる。
10	玉川上水から分水を作るための工夫を調べる。	〇武蔵野の人々が行った、低い土地に分水を通すための工夫を調べる。【学】 〇工夫や努力のもとに分水ができたことを知る。	☆途中の窪地を通す工夫があったことに気付かせる。 〇工夫や努力によって完成した分水を使えるようになった武蔵野の人々	B：資料から分水をつくるための工夫について調べる。【技】 B：先人の努力で武蔵野台地が発展してきたことが分かる。【知】 C：玉川上水の工夫を思い出させ、分水についても考えさせる。
11	現在の地域の人々の玉川上水に対する思いや願いを考える。	〇ゲストティーチャーの話から玉川上水や分水のその後を調べ、現在の地域の人々の思いや願いを考える。【体】【学】	☆資料を話のタイミングに合わせて掲示する。 〇現在の地域の人々	B：ゲストティーチャーの話から地域の人々の玉川上水に対する思いや願いを考えることができる。【思】 C：現在も玉川上水に携わっている人々がいることに目を向けさせる。
12 ・ 13	学習したことを振り返りながら「玉川上水絵巻物」を作成し、玉川上水の見方を深める。	〇学習を振り返り「玉川上水絵巻物」を作成する。 〇絵巻物に自分の玉川上水に対する思いや願いをかく。【学】	☆学習した内容をもとに、事実やそこに携わる人々の思いを取り入れてかくように助言する。 ☆人物の絵カードを紙上で操作することによってかかわりを考えさせる。 ☆事実だけではなく、学習を通して、考えたことをかくように助言する。 〇現在の人々 (自分も含む)	B：先人の努力や思いを取り入れた絵巻物をかくことができる。【技】 B：玉川上水を含む地域の良さについて気付くことができる。【関】 B：多くの人々の工夫や努力で今の玉川上水ができたことを考えることができる。【思】 C：今までの学習でかいた吹き出しを参考にさせる。

(5) 考察

○ 地域社会の人々の工夫・努力・願いに着目させる教材の工夫

人々の気持ちを考える根拠となる資料を精選し提示したことで、児童は当時の人々の思いを考えることができた。また、取り上げる人々については、時代の流れを順に追っていくとともに、「困っている人々」→「解決しようと努力する人々」→「解決して喜ぶ人々」となるように工夫した。その結果、児童は学習を重ねるにつれて、資料を自ら探したり、自分にもできることを考えたりするなど、玉川上水についてかかわりを深めていくことができたと考える。

○ 自分の考えを見つめ直し、深めさせる学習活動の工夫

ア 人々の思いや願いを考える活動の設定

(ア) 吹き出しの活用

資料をもとに、人々の気持ちを考えて吹き出しに記入したことにより、児童は、当時の人々の思いを深くとらえたり、感謝の気持ちをもったりするなど、自分の考えを見つめ直すことにつながった。

【A児の学習の記録より】

提示した資料	取り上げた人	A児のワークシート（吹き出し）より	A児の「振り返りカード」より
・「水を求めて困る人々」 についての物語 ・水売りの絵	飲み水が乏しい江戸に住む人々 困っている人々	江戸にこれ以上人が増えたら私たちは飲む水がなくなってしまう。困ったなあ。何とかして水を飲みたいなあ。そのためにはどうしたらいいんだろう。	「体に悪い水を飲んで死んでしまう人もいて、かわいそう。」 (考察) 当時の人々の思いを考えることができた。
・東京都の地図 ・測量の様子（想像図） ・水喰土公園の写真と二度の失敗に関する文章	2度の失敗をしたときの玉川兄弟 解決しようと努力する人々	このままだといつまでたっても江戸に水を送ることができない。二回も挑戦して失敗するなんて、手伝ってくれる人が怒っていなくなってしまう。	「みんなのためにこんなに苦勞して玉川上水を作ってくれたんだなあ、とありがたく思った。」 (考察) 昔の人々への感謝の気持ちを考えることができた。
・ますのしくみ ・配管の様子 ・上水井戸の使用図	水を使えるようになった江戸の人々 解決して喜ぶ人々	やっと水が通るようになってよかった。これで江戸のくらしも、ゆたかになるといいなあ。玉川兄弟と手伝ってくれた人たちに感謝しなくちゃ。	「江戸の人々はとても喜んだと思う。ますのしくみもすごい。」 (考察) 当時の人々の思いと工夫を考えることができた。

(イ) 学び合いの場の設定

ワークシートに記入した「気が付いたことや自分の考え」を発表し、友達のことを知る場面を設けた。その際、友達の考えを青色のペンでワークシートに書き加えるようにさせた。児童は友達の考えを熱心に聞き、自分の考えを深め、自分では気付かなかった点に気付かされ「振り返りカード」に友達の考えを取り入れて書く姿も見られた。学び合いの場の設定により児童は自分の考えを広げることができたと考える。

(ロ) 効果的な体験活動

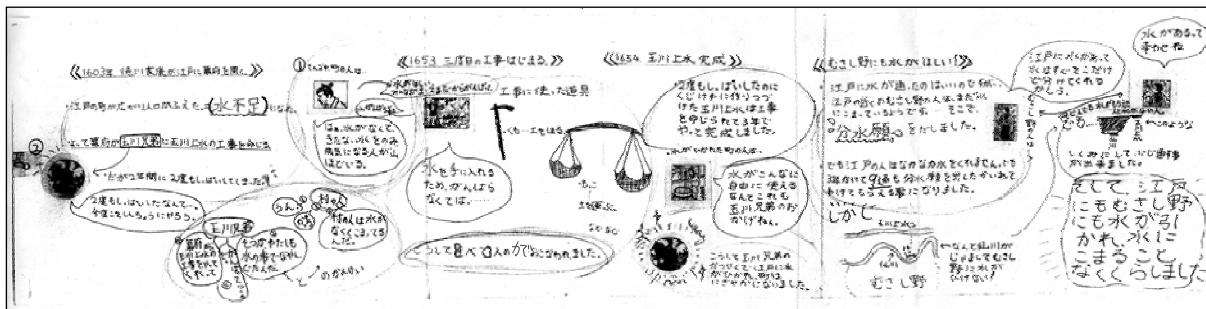
学習に入る前のA児は、玉川上水について、「名前は聞いたことがあるが、それが何だかは分からない」と答えていた。導入段階で玉川上水を見学したことが、「これからしっかり玉川上水について調べていきたい。」という関心をもつことにつながった。（下線は「振り返りカード」の記述）さらに、ゲストティーチャーの話聞いて、A児は現在も玉川上水を守っている人々がいることを知った。そして、「玉川上水は江戸の人々の宝だったんだ。」という、新たな認識をもつことができた。

イ 学習のまとめの段階における表現方法の工夫

これまでのワークシートや「振り返りカード」を活用して「玉川上水絵巻物」を作成するように児童に働きかけたことで、児童は学習を振り返り、絵巻物に表現することができた。A児の絵巻物には、「これからも私たちが玉川上水を守っていかなくてはならない」と

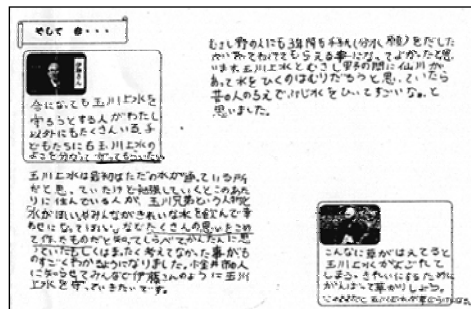
いう、これからの自分の在り方やかわり方を考える記述がみられた。

B 児がかいた「玉川上水絵巻物」



私は、最初玉川上水は、ただの川だと思っていたけど、水不足だった江戸の人のために作られたと聞いておどろきました。一番おどろいたのは、ますのしくみです。まず低いところから反対の上の方にきれいになった水の出口があって、そこでよごれが下に落ちて上のきれいな水だけが上水井戸の所に行くので、昔の江戸人は頭がいいなと思いました。あと、昔の工事の道具で「もっこ」を使う体験をした時、土をパンパンに入れて一人で持とうとしたら、持てませんでした。でもこれを江戸の人たちは、一人で持っていたのですごいと思いました。玉川上水は、たくさん手間、時間をかけて作られたすごい川なんだな。これからも、私たちが守っていかなくてはいけない宝物だと最後に思いました。

(A 児の「玉川上水絵巻物」より一部抜粋)



6 4年分科会 成果と課題

(1) 研究の成果

ア 地域の人々の工夫・努力・願いに着目させる教材の工夫

- ・「かかわり教材分析シート」を作成することにより、社会的事象とかかわりの深い人物や資料を選定することができた。
- ・人々の「工夫・努力・苦心」「思い・願い」を読み取ることができる資料を選定・活用したり、人物の気持ちを吹き出しに表現させたりしたことにより、児童の心情に訴えかけることができ、児童は意欲的に学習に取り組むことができた。また、様々な立場の人の気持ちを考えることにより、社会的事象を多面的にとらえることができた。
- ・似顔絵入り吹き出しやヒント入りワークシートなど、児童の習熟の程度に応じたワークシートを工夫したことにより、個に応じた指導の一層の充実を図ることができた。

イ 自分の考えを見つめ直し、深めさせる学習活動の工夫

- ・互いの意見を交換させたことによって、自分では気付かなかった地域社会の人々の思いや願いに気付くことができた。
- ・ねらいを明確にした体験活動を設定したことにより、人物の気持ちにせまることができた。
- ・単元の学習を振り返り、児童と社会的事象や社会的事象相互の関連を効果的にまとめることで、自分と地域社会とのかかわりについて考えを深めていくことができた。

(2) 研究の課題と今後の方向性

- ・いくつかの単元に関しては効果的なまとめ方を提示することができたが、すべての単元に応じたまとめの表現の工夫の仕方を提示するには至らなかった。今後もさらに、ワークシートの工夫や効果的なまとめ方の研究を深めていきたい。
- ・学習の連続性が途切れ、考える方向が定まらない児童もいた。このような児童に対しての個別指導をどう進めていくかが今後の課題である。丁寧に前時までの学習を振り返るなど個別の支援を単元の計画に導入していきたい。

Ⅲ 5年分科会

5年分科会研究主題

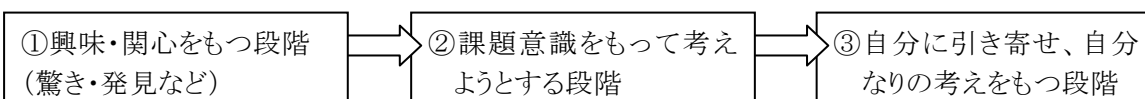
我が国の産業や国土について、自分の考えを深める社会科学習

1 5年分科会 研究主題設定の理由

社会科の究極的な目標は、社会生活についての理解を図り国土と歴史に対する理解と愛情を育て、公民的資質の基礎を養うことである。「公民的資質の基礎を養う」ためには、社会の一員としての自覚をもたせ、社会に貢献しようとする態度を育てていかなければならない。社会に対して自分がどのようにかかわっていけばよいのかを考えることのできる児童を育成することが必要であると考えた。

本分科会では、社会科の学習に取り組む児童の姿を把握するためにアンケートを実施した。その中で「社会科の学習は自分の今の生活やこれからの生活にかかわりがあると思いますか。」という質問に対して、「あると思う」と答えた児童が9割以上いた。その理由の多くは「将来、大人になったら役に立つ。」等、児童は前向きにとらえていることが分かった。中には、「これからの日本の水産業のゆくえは漁師も関係しているけれど、消費者である自分も関係していると思う。それは、自分が選んで魚を買うからだ。」とアンケートに記入している児童や、「学習してから輸入品の安全性を考えるようになって、買うかどうかを考えるようになった。」と記入する児童もいた。これらは学習した内容を自分の生活に引き寄せ、社会とどうかかわっていくかにまで考えが深められている姿であるととらえた。多くの児童がこのように考えを深めるには、学習した内容を「自分ごと」としてとらえさせることが大切であると考えた。

本分科会では、「自分ごと」とは、「社会的事象が自分に関係があること、自分にとって意味や価値があること」ととらえることとし、次のような学習指導の段階があると考えた。



5年生の学習では、産業が国民生活を支えていることや、国土の環境が国民生活の発展に大きな役割を果たしていることを児童に理解させることが大切である。また、学習を通して、児童自身も社会の一員であることを意識させながら、社会的事象の意味が他人ごとではなく「自分ごと」としてとらえられるようにする必要もあると考えた。

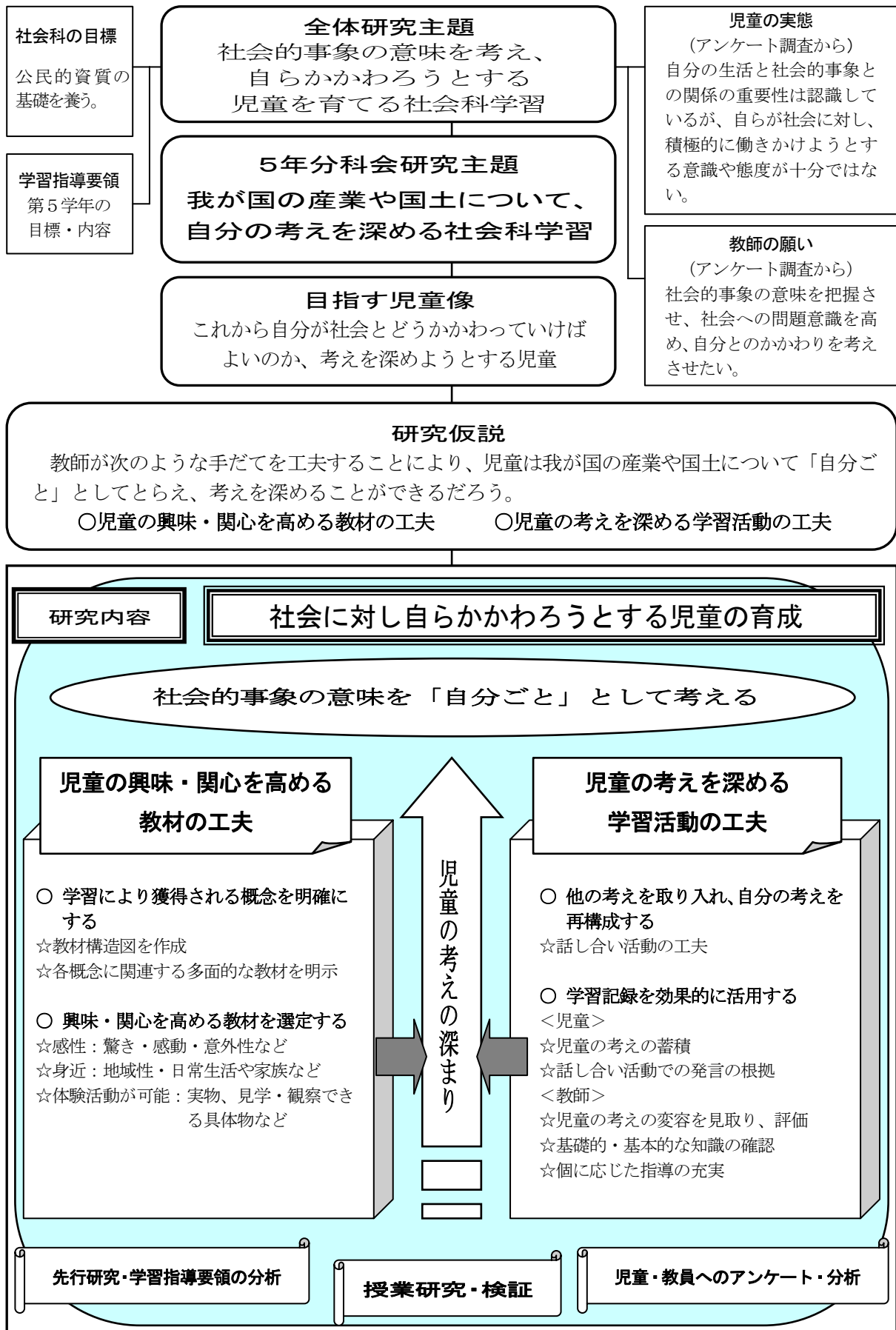
以上のことから、5年分科会の研究主題を上記のように設定した。その具体的な手だてとして、(1)児童の興味・関心を引き出し、高め、社会的事象の意味を自分にもかかわりのある「自分ごと」として考えられるような教材の工夫、(2)考えを深めるために他者の考えや新しい情報を取り入れ、自分の考えを修正しながら再構成する学び合いを取り入れた学習活動の工夫、について研究を進めることにした。

2 5年分科会 研究仮説

教師が次のような手だてを工夫することにより、児童は我が国の産業や国土について「自分ごと」としてとらえ、考えを深めることができるだろう。

○児童の興味・関心を高める教材の工夫 ○児童の考えを深める学習活動の工夫

3 5年分科会 研究構想図



4 5年分科会 研究の内容

(1) 児童の興味・関心を高める教材の工夫

ア 学習により獲得される概念を明確にする

学習指導要領の内容と目指す児童像から学習単元の中心概念を明確にし、その中心概念から基本的事項・要素・素材を整理・分類した教材構造図を作成する。特に、児童が多面的に考えることができるようにするために、活用教材は、社会的事象に関連する多様な立場や考えを児童に示すことができるようにする。(下記の教材構造図を参照。)

イ 興味・関心を高める教材を選定する

児童が社会的事象をとらえやすいよう、「感性」「身近」「体験活動が可能」をキーワードとした教材を選定する。

【教材構造図(例:小単元「自動車をつくる工業」)】 (感:感性、近:身近、体:体験活動が可能)



(2) 児童の考えを深めるための学習活動の工夫

ア 他の考えを取り入れ、自分の考えを再構成する

児童が一面的な知識だけではなく様々な考えを知り、社会的事象を多面的にとらえることができるよう話し合い活動を位置付ける。その学習活動を通して、児童が自分と他者の考えを比較し、さらに自分の考えを深めることができようにする。

イ 学習記録を効果的に活用する

児童が考えを蓄積し再構成していく過程や、学習指導要領における基礎的・基本的な学習内容の定着を見取るために、ワークシート等を作成し、個に応じた指導に生かす学習記録として活用する。また、児童の話し合い活動での発言を支える資料としても活用する。

5 5年分科会 実践事例

(1) 単元名「自動車をつくる工業」(12時間扱い)

(2) 単元の目標

- ・自動車工業に従事している人々の工夫や努力について調べ、工業生産が国民生活や産業を支える重要な役割を果たしていることを考える。
- ・各種の写真・地図・統計および資料を活用して、日本の工業生産の現状や課題についてとらえ、自分なりの考えをもつことができるようにする。

(3) 学習指導計画

(世界に広がる自動車工業は、「工業生産と貿易」の小単元で扱う)

	時	ねらい	学 習 活 動 (考えを深めるために、 変容を見取るために)	※資料・支援 (興味・関心を高めるために)	評 価 (Cは指導の手だて) 【発】発言 【ワ】ワークシート 【観】観察 【ノ】ノート 【ア】アンケート
つかむ	1	身の回りの工業製品の便利さに気づき、自動車工業に関心をもつ。	<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りにある工業製品を探し、工業製品がわたしたちの生活にどのように役立っているかを話し合う。 ・「主な国の自動車生産台数」のグラフから、日本の自動車工業が世界でも誇れるものであることを知る。 ・「車のイメージアンケート」(1回目)に答え、身近な人に聞き取り調査をする。(宿題) 	※レモン・レモンジュース(実物) ※主な国の自動車生産台数のグラフ ・どの国が何位かを予想させ、関心をもたせる。	B 〈関〉身の回りにある工業製品を探し、自分たちの生活が便利になってきたことに気づき発表する。わたしたちの生活に自動車が必要なものであることに気付く。【発・ワ】 C 具体的な工業製品を挙げ、身近に工業製品がたくさんあることに気付かせる。
	2	自動車に興味をもち自動車に対する自分の願いをもつことができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・調査してきたことを報告し合い、車に対する人々の願いがさまざまであることを知る。 ・自分が車を持つとしたらと仮定して、自分の欲しい車を思い描き、ワークシートに書く。 ・注文どおりの車を観察する視点を話し合う。 	※調査結果報告 ・結果をまとめて「車に対する人々の願い」として常掲する。 ※次時の車のパンフレット ・自分の欲しい車が思い描きにくい児童の参考とする。	B 〈関〉自分の欲しい車について自分の願い(色や装備、こだわりなど)をワークシートに書きこむ。【ワ】 C パンフレットから具体的に選べるように指導する。
	3	興味をもって実物を観察し疑問をもつことができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・車(実物)を観察し、気付いたことをメモに書いたり、質問したりする。 ・ゲストティーチャー(自動車販売店の方)から、実物を通して部品の数、組み立てにかかる時間、多様な注文に応えること、品質検査について説明を聞く。 ・学習問題をつくる。 注文どおりの車をつくるための工夫や努力を調べよう。 	※実物(車) ※実物(車)の注文書 ※ゲストティーチャー ・見学の視点「注文どおりか、性能、部品の数」を明確に。 ・ゲストティーチャーに話してもらうこと「部品の数、時間、期間、安全、品質検査」(クイズ形式)。	B 〈思〉実物の自動車の観察で分かったことや、教えてもらったことをメモし、自動車生産の工夫や努力について予想することができる。【発・ワ】 C 視点にそって実物を観察させ、注文どおりに自動車ができることに興味をもたせる。
調べる・まとめる	4	組み立て工場で効率よく一台の車が生産されるシステムを理解し、指示書の役割を考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・組み立て工場について教科書、資料集、映像を活用して工夫や努力について調べる。 ・調べたことから工場働く人の工夫や努力について考える。 	※教科書・資料集、NHK「とことん日本見聞録」～車はこうして作られる～ ※注文書 ・組み立て工場について分かったことをキーワードでメモさせる。絵と工程を線で結んで調べた内容を確認する。	B 〈知〉色や装備など自動車に対する多様な消費者のニーズに応える指示書の役割に気づき、工場働く人々が様々な工夫や努力をしていることが分かる。【ワ】 C 指示書がいつも付いていることを確認し、自動車生産が消費者のニーズに基づいていることを確認する。
	5	関連工場や輸送など、たくさんの人が関わっていることで、車が手元に届くことが分かる。	<ul style="list-style-type: none"> ・組み立て工場以外にどんなところが関係しているか予想する。 ・関連工場、輸送について教科書、資料集を中心に調べる。 ・わたしたちの手元にどのように届くのか、「ジャストインタイム」を手がかりに、指でたどって確認する。 	※教科書、資料集、注文書 ・ワークシートを活用し、関連工場・輸送について、分かったことを全体でまとめる。	B 〈思〉組み立て工場や関連工場、輸送の働きなどのつながりについて「ジャストインタイム」を手がかりに関連付けて考えることができる。【発・ワ】 C 工場での様々な工夫や関連工場とのつながりに気付くように一つ一つ質問していく。

つかむ	6	<p>これからの車づくりに関心をもつ。</p> <p>・自動車引き起こす問題点を知り人々の願いに気付く。 ・学習問題をつくる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>これからもっとよい社会になるために 自動車会社はどんな車を開発しているだろう。</p> </div> <p>・どんな車が開発されているかを予想し調べる課題を決める。</p>	<p>※光化学スモッグ問題（読み物） ※自動車ゴミ問題（写真） ・身近な自動車問題に気付かせ、これからの自動車の開発につなげる。 ※「クルマまる分かりブック」配布</p>	B	〈関〉自動車が引き起こす問題点を想起し、人々の願いと自動車の開発について学習問題をつくることができる。【発・ワ】	
				C	提示した資料から読み取れることを確認して、自動車が引き起こす問題点が分かるようにする。	
調べる	7・8	<p>自分の課題を調べどのような開発に結びついているか、キーワードを探すことができる。</p>	<p>・調べる計画を立て見通しをもたせる。 ※教科書・資料集・クルマまる分かりブック・インターネットサイト（各自動車会社の子供用サイト）・自動車広告・CM・自動車パンフレットなど ・資料が見つけれない児童には、教師の資料から選ばせる。</p>	B	〈技〉これからの自動車生産に興味・関心を持ち、自分の課題に関するキーワードを、様々な資料を使って進んで調べることができる。【観・ノ】	
				C	課題にあった資料を提示したり、友達に教えてもらったりするようにする。	
	9	<p>販売店を見学し課題にそって実物から実際の工夫を確かめる。</p>	<p>・自分の課題について実物を見たり販売店の人に聞いたりして調べる。 ・人々の願いからどんな車を開発しているかについて、全体で話を聞く。</p>	※販売店での車の実物（ハイブリッドカー・福祉車両・修理中のクルマ）	B	〈技〉新しい自動車の開発の工夫や努力について、実物の観察や販売店の人へのインタビューを通して調べ、メモすることができる。【観・ノ】
				C	調べる視点を明確にできるように指導する。	
まとめる	10	<p>調べたことを分かりやすくまとめる。</p>	<p>・資料やメモから、自分の考えをまとめる。 ・自分の考えがよく分かるように、作品にまとめる。</p>	※調べた資料 ・国語の「レポートの書き方」を参考に写真や絵なども入れて分かりやすくまとめる。	B	〈技〉調べたことを基にして、資料を活用し、自分の考えたことをまとめることができる。【B4用紙】
				C	友達のまとめを例示し、書き方が分かるようにする。	
	11	<p>調べたことを情報交換し多様なニーズにより自動車が開発されていることが分かる。</p>	<p>・調べたことを情報交換する。 ・「車のイメージアンケート（2回目）」に答える ・話し合いのテーマに沿って自分の考えをまとめ、同じ考えの人と情報交換する。</p>	※各自がまとめた作品	B	〈知〉情報交換を通して新しい自動車開発について分かり、友達の意見も参考にして、話し合いテーマに対する自分の考えをアンケートに書くことができる。【ア】
				C	友達の発表で初めて知ったことを挙げさせ、自分の考えを書くときに参考にできるようにする。	
深める	12	<p>学習したことをもとに「これからの自動車社会の在り方」について話し合い、自分の考えをもつ。</p>	<p>・話し合い、考えを広げ深める ・これからの自動車社会の在り方について「これからわたしたちにできることはあるか」を考える。 ・話し合ったことから「車のイメージアンケート（3回目）」に答え、感想を書く。</p>	<p>・児童が話しやすくなるように、相互指名で話し合いを進めさせる。 ・教師は話の流れが分かるように板書する。</p>	B	〈思〉話し合いを通して、これからの自動車社会の在り方について考えることができる。【発・ア】
				C	今までの学習したことを思い出させ、自分の立場（消費者として）を明らかにして考えさせる。	

(4) 考察

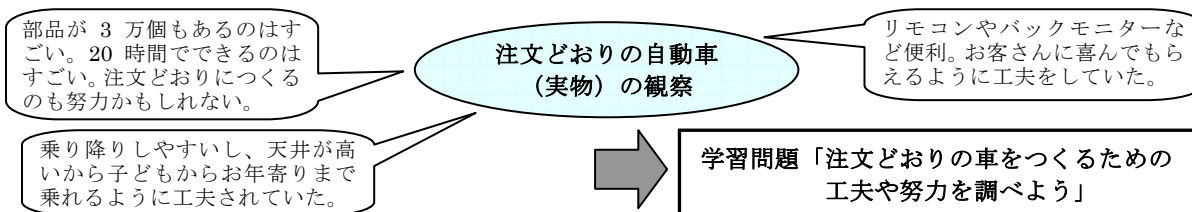
ア 児童の興味・関心を高める教材の工夫

○ 学習により獲得される概念を明確にする

教材構造図に基づき、工場や販売店で働く人、家族の願いなど多様な立場の教材を選定し、多様な視点から自動車生産の工夫や努力を調べたことで、児童の見方や考え方を広げることができた。

○ 興味・関心を高める教材を選定する

カタログを見て児童が注文した自動車の実物や10年前の車と現在の車の排出ガス量の違いの観察、山積みの廃車の写真など、「感性」「身近」「体験活動が可能」の視点から教材を選定した。その結果、児童の興味・関心を高めることができ、学習中・学習後も持続していた。

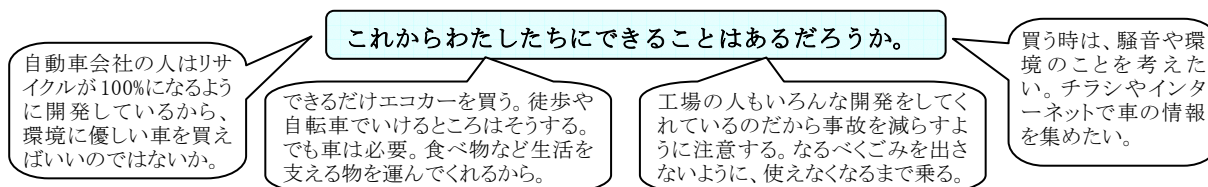


イ 児童の考えを深めるための学習活動の工夫

○ 他の考えを取り入れ、自分の考えを再構成する

話し合い活動を位置付けたことにより、児童は、今まで学習したことを根拠にして自分の考えを発表したり、友達の考えを取り入れたりし、自分の考えを深めることができた。

また、児童が興味・関心を高め、持続している上で自動車工業についての知識を獲得し、さらに現実にある問題点を知ることにより、働く人の工夫や努力、そして消費者としての自分の立場について「自分ごと」として考えをより深め、下記にあるようにこれからのよりよい車社会に向けてできることを、自分に引き寄せて考えることができた。



本事例の話し合いは「このまま車は増えてもいいのだろうか」という二者択一のテーマで行った。児童の意志決定を促す上では有効であったが、現在の社会において不可欠な自動車を否定してしまう可能性があるなどテーマ設定には課題が残った。

○ 学習記録を効果的に活用する

学習記録を振り返らせ、「どうしてそう考えるのか」など根拠を明らかにさせたことで、児童は、学習内容を常に自分に引き寄せて考えることができた。また、「車のイメージアンケート」の設問を常に同じ問いにしたことや、毎時間ごとに授業後の感想を書かせたことで、児童の興味・関心の高まりや考えの深まり、変容を見取ることができた。

【考えの深まり(ワークシート・アンケートより)】

自分の興味・関心から < A児 >

働く人・車の必要性から < B児 >

(1回目アンケート)

・自動車は、速く移動できる。しかし、排気ガス、事故の問題がある。

(身のまわりの工業製品探しから)

・日本は、食料自給率は低かったのに工業生産はすごい。物を作りかえるのは大変そうだけど人の

↓ (これからの自動車について課題をもつ)

- ・感想文で車いすの人の本を読んだので福祉車両について調べたい。

↓ (実物を見て乗って)

- ・福祉車両に実際に乗ってみて降りるのはとても楽しかった。でも日本の福祉車両はアメリカより遅れている。早くアメリカに追いついて欲しい。

↓ (まとめることで)

- ・日本は高齢化社会だからもう少し安くしてどんどん買ってもらってアメリカと同じくらいに売れるとよい。私も老後は車に乗って出かけた。

役に立っている。

↓ (自動車の観察など)

- ・いろいろな注文に応えるのは大変だろうな。工場の人が細かいところまで作って、お店の人が売って、一台にいろいろな人が 6000 人くらいかかっている気がする。だから大切に乗りたい。

↓ (話し合いを通して)

- ・できるだけ近いところは徒歩や自転車で行くようにしたい。でも車も遠いところや荷物が多いときには必要。だから環境によいエコカーを選んで環境をよくしたい。

6 5年分科会 成果と課題

(1) 研究の成果

ア 児童の興味・関心を高める教材の工夫

- ・教材構造図を作成することにより、学習すべき内容を明確にすることができた。
- ・教材構造図の活用教材欄に、教材選定の3つの視点、「感性」「身近」「体験活動が可能」を明記したことにより、学習内容と児童の興味・関心を結び付け、中心概念に到達できるように教材を構成することができた。さらに多様な立場や考えを整理して示すことができた。
- ・「感性」「身近」「体験活動が可能」の3つの視点から教材を選定したことは、児童の学習に対する興味・関心を持続させ、学習問題づくりに有効であった。この3つの視点は児童に強い印象を与えることができ、学習の方向性を示すのにも効果的であった。

イ 児童の考えを深めるための学習活動の工夫

- ・話し合い活動を位置付けたことにより、児童は、自分の考えを再構成し深めることができた。また、今後の社会のよりよい在り方を考えさせることで、社会の一員としての自分を考えさせることができた。
- ・ワークシートを活用して基礎的・基本的な学習内容を定着させるとともに、そのワークシートを学習記録としてまとめ、児童には話し合い活動の根拠となる資料としても活用させたことで、児童は調べ学習や話し合い活動に意欲的に取り組むことができた。また、学習記録から児童の考えの変容や、基礎的・基本的な内容の定着を見取ることができ、個に応じた指導の一層の充実につながった。

(2) 研究の課題と今後の方向性

ア 児童の興味・関心を高める教材の工夫

- ・他の単元でも多面的な立場を教材構造図に位置付け、活用できるよう教材開発を進める必要がある。また、教材をより有効に活用するために、児童への資料提示の仕方の工夫などについても、今後も研究を重ねていきたい。

イ 児童の考えを深めるための学習活動の工夫

- ・話し合い活動を位置付けたことは児童の考えを深めることに有効であったが、話し合いのテーマについては、今後も検討が必要である。児童にとって切実感があり、かつ単元のねらいを達成できる話し合いのテーマの検討を続けていきたい。
- ・思考の軌跡として感想や考えを学習記録に蓄積しておくことは評価の方法として有効であったが、学習問題に対して授業終了時点での考えを書くなど、児童に書かせる視点をより明確に提示する必要がある。

IV 6年分科会

6年分科会研究主題

社会的事象の意味と生活との深いかかわりを実感し、
自分自身の在り方を見つめ直す社会科学習

1 6年分科会 主題設定の理由

6年生の社会科では、歴史・政治・国際理解の学習を通して社会生活についての理解を図り、国際社会に生きる民主的、平和的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養うことを目標としている。

本分科会で行った児童の実態調査から、既習内容を自分とのかかわりの中でとらえている児童が少ないことが分かった。そこで、学習内容と自分の生活との深いかかわりを実感しながら自分なりの考えをもったり、新しい考えに気付いたりすることが、自分自身の今後の生き方や在り方を見つめ直していくことになると考えた。

さらに、社会科の学習に対する児童のイメージでは「知る・覚える」学習が非常に多く、知識習得中心の学習と考えているようである。単に知識の習得ではなく、学習過程の中で「自分なりの考えをもち、考えを深める」ことを通して、主体的に自分自身の在り方や生活を見つめ直すことが大切である。また、教師の実態調査から、教師は「考えさせる」必要性を十分に感じてはいるものの、実際には「教える」授業を展開し、なかなか考えさせる授業を実践できていないようである。それが、児童に「知る・覚える」学習、つまり知識習得中心の学習というイメージをもたせる原因の一つとも考えられる。

本分科会では、自分自身の在り方を見つめ直す児童を育てていきたい。そのためには、児童が「自分なりの考えをもつ段階、考えを見直す段階、さらに考えを深める段階」という考えの見通しをもつことが重要である。児童が多くの情報の中から自分なりの判断基準で、多面的に考えを見直し、さらに自分の考えを深めることができるようになるためには、教師が、児童に考えさせるポイントを明確にした授業を展開する必要がある。このような単元を構成し、学習することを通して、我が国の歴史や文化の成り立ち、人物の生き方、自分の国を愛する心情も育てていきたい。

以上のことから、単元の中で実感をもって考えさせたい学習内容や学習活動を工夫し、児童一人一人が自分自身の在り方を見つめ直すことを目指して、上記の研究主題を設定した。

2 6年分科会 研究の仮説

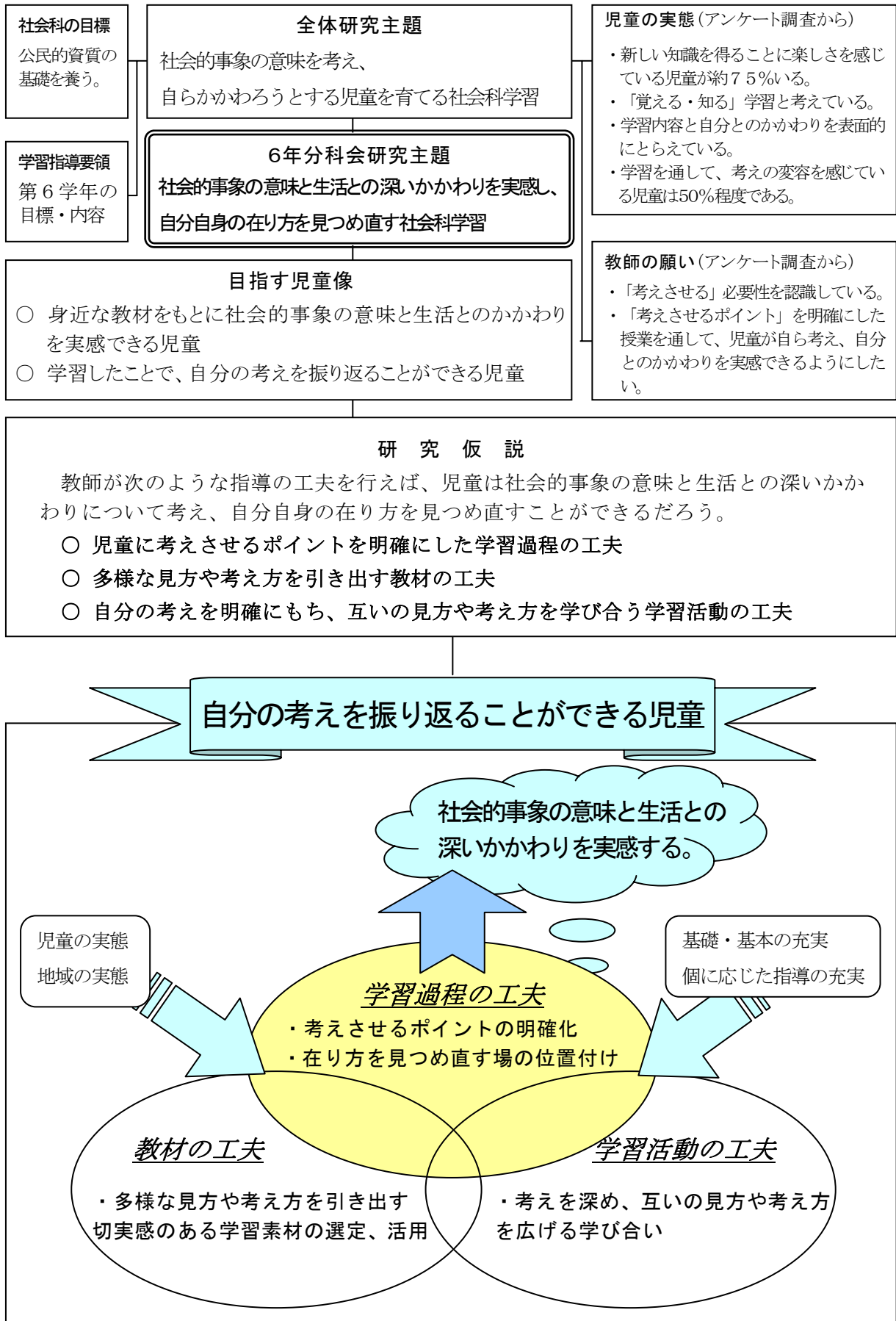
教師が次のような指導の工夫を行えば、児童は社会的事象の意味と生活との深いかかわりについて考え、自分自身の在り方を見つめ直すことができるだろう。

- 児童に考えさせるポイントを明確にした学習過程の工夫
- 多様な見方や考え方を引き出す教材の工夫
- 自分の考えを明確にもち、互いの見方や考え方を学び合う学習活動の工夫

仮説にそって授業を展開し、児童の意識を下記のように変容させる。

- (1) 社会科の学習に対する意識を 覚える→考える にする。
- (2) 歴史の学習を 嫌い→好き にする。好き→さらに興味が広がるにする。
- (3) 学習したことで考えが変わったり、深まったり、自分を振り返ったりできるようにする。
- (4) 社会科の学習を 役に立たない学習だ→自分の今後に役に立つ学習だ にする。
- (5) 社会科の学習は 自分の生活とかかわりがない→自分の生活とかかわりがある にする。

3 6年分科会 研究構想図



4 6年分科会 研究の内容

知識伝達型→知識獲得型（知識習得の学習→学び方、考え方を習得の学習）

- 自ら問題意識をもち、自力で追究し、学習問題を解決していくようにする。
- 調べて考える力を育成し、歴史上の人物を窓口にして時代の様子をとらえられるようにする。
 - ①社会的事象の観察・調査、地図や各種の具体的資料を活用して調べられるようにする。
 - ②調べ学習の過程や結果において、様々な表現活動を組み入れ、児童がそれらを相互に評価し合う場を設定する。
 - ③調べたことや表現したことを基にして、地域社会の社会的事象の特色や相互の関連などについて考えさせる。

＜考える力を育成する視点＞

- ・事実を丹念に読み取らせ、考える内容をはっきりさせる。
- ・事実や事象を多面的に見たり、考えたりできるようにする。
- ・今、学習して分かったことや考えたことは、今後新たな事実や資料に出会うことで、違った見方や考え方が生まれる可能性があるということが分かるようにする。

(1) 学習過程の工夫

【考えさせるポイントの明確化】

- 追究していく学習問題を工夫する。
 - 歴史上の主な事象を人物の働きや文化遺産とのかかわりで理解したり考えたりすることができるように、単元の学習問題を設定し、個々の学習問題をもたせる。
- 問題解決の見通しをもたせ、学習のめあてをもつ場面を複線化する。
 - 児童の問題意識が焦点化できるようにし、自分はどんなことをどんな方法で調べていくかという学習計画を具体的に立てさせる。

【在り方を見つめ直す場の位置付け】

- 自分の生活とのかかわりを常に意識できるように記述させる。
 - 自分の考えを書いてまとめることで、具体的に考えをもつようにし、他者に分かりやすく、他者の考えをも認められるようにする。

(2) 教材の工夫

【多様な見方や考え方を引き出す切実感のある学習素材の選定・活用】

- 学習資料を複線化する。
 - ①教師が、同一形態の様々な資料から選択する。
 - ②児童が、多種形態の資料から選択する。

(3) 学習活動の工夫

【自分の考えを明確にもち、互いの見方や考え方を広げる学び合い】

- 学習方法（調べ方・まとめ方）を複線化する。
 - （調べ方）学習の目的に応じた調べ方を例示し、自分で選択させる。
 - （まとめ方）調べたことから自分はどのようなことを考えたのか「自分なりの考え」を書いてまとめさせる。それぞれがまとめたこと、考えたことは、その後学級全体で話し合い、自分の考えを比較修正したり、確認したりして、より広い見方や考え方ができる活動にする。

5 6年分科会 実践事例

(1) 単元名 世界に歩み出した日本（7時間扱い）

(2) 単元の目標

- ・大日本帝国憲法、日清・日露の戦争、条約改正、科学の発展などについて調べ、我が国の国力が充実し国際的地位が向上したことを理解する。
- ・社会的事象の意味について学習問題を通して追究し、土台となる知識を生かして自分の考えをもつことができる。

(3) 学習指導計画

	時	ねらい	○考えさせるポイント ・児童の思考	社会的事象	学習活動	◇資料 *支援	評価基準（Cは手だて）
問題意識を焦点化する	1	不平等条約の実態をとらえ、条約改正への国民の願いについて考える活動を通して、問題意識を明確にもつことができる。 (思考・判断)	○ノルマントン号事件のビゴー画から分かることは何だろうか。 ・たくさんの日本人が溺れている。 ・英国人が日本人を助けなかった。 ○なぜ不平等条約を結んだのか。 ・不平等条約を結び、英国と対等ではない。外国の圧力に負けた。 ・武力、生産活動、文明、政治制度の格差 ○条約改正までに50年もかかった。 ○条約改正に向けて日本はどのようなことをしたのだろうか。 ・憲法を定め、議会を開く。 ・近代的な工場の設立。 ・強い軍隊をもつ。 日本は、どのようにして外国に認められる国になっていったのか	(児童への提示順) 1886年 ノルマントン号事件 1853年 ペリー来航 1854年 日米和親条約(米露英蘭) 1858年 日米修好通商条約(米英蘭仏露) ・治外法権がある。 ・関税自主権がない。 1911年条約改正	(一斉) ○ノルマントン号事件のビゴー画から分かることを出し合う。 ○当時の日本と欧米諸国の比較をし、国力の違いを具体的にとらえる。 ○条約改正に至るまでに50年もかかったことを実感する。 ○条約改正のために日本が行ったことを予想する。 →学習問題が分かる。	◇ノルマントン号事件(ビゴー画) ◇黒船来航図絵(教科書) ◇年表(教師資料) ◇地図帳 ◇ワークシート①	B: 不平等条約の実態をとらえ、条約改正のための努力を予想し、書くことができる。 C: 写真や図など具体的な様子がわかる資料を提示し、江戸時代からの日本の様子や現在の日本の様子を想起させる。
課題を解決する	2 3	課題を選択して調べ、分かったことに対し、自分なりの考えをまとめる。 (資料観察の技能・表現) (思考・判断)	○誰がどんな努力をしたことにより、日本は外国に認められる国になっていったのか。 A 伊藤博文と大日本帝国憲法(内閣制度・帝国議会) B 陸奥宗光と講和条約(日清戦争と治外法権の撤廃) C 小村寿太郎と講和条約(日露戦争と関税自主権の回復) D 野口英世と科学の発展	1889年 憲法発布、帝国議会 1895年 下関講和条約 1905年 ポーツマス条約 黄熱病の研究	(一斉)→(個別) ○条約改正に向けて努力した人々がいたことを知る。 ○課題を選択し、調べて考えたことから結論をまとめる。 (内容別グループ) ○発表資料を作成し、互いの情報交換をする。	◇前時に記述したワークシート① *学習問題決定理由が話せるようにする。 ◇個人ノート ◇学習問題を書いてまとめたワークシート② ◇教科書・資料集 ◇発表用資料	B: 資料を活用し、調べた内容から自分なりの考えを書くことができる。 C: 調べた内容を振り返らせ、その人物に対して感じたことや思ったこと(結論)が書けるよう助言する。

課題を解決する	4	<p>国力の充実に向けて努力してきた様々な人物の業績を知り、自分なりの結論を伝え合い、自分なりの考えを深める。 (関心・意欲・態度) (知識・理解) (思考・判断)</p>	<p>○発表資料を基に、国力の充実に貢献した様々な人々の努力を知る。 A伊藤博文 B陸奥宗光 C小村寿太郎 D野口英世 ○自分の考えと友達の考えを比較する。 ・4人とも日本のために努力してきたことが分かった。 ・友達の見解で、自分の意見が変わった。 ・友達のことを聞いて、いろいろな考え方が分かった。</p>	<p>大日本帝国憲法 治外法権撤廃 関税自主権の回復 医学の進歩</p>	<p>(内容別)→(一斉) ○互いの調べた内容資料から、国力の充実に向けての人物の働きを知る。 (生活グループ) ○互いの考えを知り、自分の考えを深める。</p>	<p>◇前時作成の発表用資料 ◇ワークシート③ ◇貢献度グラフ (貢献度を星の数で表したもの)</p>	<p>B:様々な人物の働きについて理解し、新たな自分の考えを書くことができる。 C:自分が調べた人物以外の業績について友達のことをよく聞き、自分の考えと比べるように助言する。</p>
自分自身の在り方を見つめ直す	5・6・7	<p>国力が充実し、国際的地位が向上した日本に対して自分の考えをもち、これからの自分自身の在り方を見つめ直す。 (思考・判断) (関心・意欲・態度)</p>	<p>○国力の充実に貢献した人々から自分自身が学んだことは何だろうか。 ・伊藤博文が大日本帝国憲法を作ったおかげで、今の日本国憲法がある。 ・陸奥宗光と小村寿太郎のおかげで、治外法権を撤廃し、関税自主権の回復が実現し、今の世の中がある。 ・野口英世の黄熱病の研究のおかげで、医学の進歩をとげた。</p> <p>○外国に認められるようになった日本は、その後どうなったのだろうか。 ・軽工業・重工業が急速に発達し、生産力が向上したことが今の日本につながっていると思った。 ・日本が、朝鮮(大韓帝国)に対して行ったことが今の外交問題につながっていることが分かった。</p> <p>○これからも、日本が世界の中で認められ続けるために必要なことはどんなことだろうか。 ・今の日本があるのは昔の人の努力のおかげだと思った。戦争のない、平和な日本であって欲しいと思った。 ・日本人は自分の力で時代を変えていったと思った。こうして日本の未来は変わっていくのだ。ぼくも自分なりにがんばりたい。 ・スポーツ選手が活躍するなどこれからも日本が世界に認められたい。</p>	<p>★これまでの社会的事象を基にした考え</p> <p>日清・日露後の産業の発展 八幡製鉄所 1910年韓国併合 与謝野晶子 石川啄木</p> <p>★これまでの社会的事象を基にした考え</p>	<p>(一斉)→(個別) ○条約改正にかかわる人物の業績を振り返り、手紙を書く。 ○意見交換し、互いの考えを認め合う。</p> <p>(一斉)→(個別) ○国力の充実と韓国併合を知り、自分の考えを発表する。</p> <p>(個別)→(一斉) ○今後の自分自身の在り方、日本人としての在り方を考え、書いてまとめる。</p>	<p>◇手紙用ワークシート④ ◇ワークシート①～③</p> <p>韓国併合 *韓国併合で日本の印象が偏らないようにする。</p> <p>◇ワークシート⑤ *自分の考えの変わりが分かるようにする。</p>	<p>B:前時までに調べた内容や情報交換を基に、国際的地位の向上に尽くした人物に対する考えを手紙に書くことができる。 C:調べてまとめた資料を読み返し、それを基にして、自分の考えを手紙に書くよう助言する。</p> <p>B:日本の生産力の向上と韓国併合について知り、朝鮮の立場に立って考えを書くことができる。 C:日本と朝鮮との関係は日本が不平等条約を結ばされた時と同じだったことを想起させる。</p> <p>B:国力の充実と国際的地位の向上について振り返り、これからの日本の在り方について考えを書くことができる。 C:世界の中での日本の立場がどうだったか思い出し、現在はどのように外国との関係がうまくいっているのかを考えられるように助言する。</p>

(4) 考察

ア 学習過程の工夫

【考えさせるポイントを明確にして作成した指導計画】

教師が、各時間において児童に考えさせるポイントを明確にしたことにより、児童は考える視点を効果的にもつことができ、考えを深めることができた。

【自分の考えを深め、在り方を見つめ直す場の位置付け】

各時間に自分の考えをまとめる場を設定したことにより、児童は自分の考えを具体的にもつことができた。また、単元の終末では、これからの日本について自分が書いてまとめたものを振り返り、考えることができた。

イ 教材の工夫

【多様な見方や考え方を引き出す資料やワークシートの作成・活用】

人物の業績だけでなく、児童が身近に感じたり興味をもったりできるよう、人柄やエピソードを取り入れた資料を作成した。児童はそこから想像力を膨らませながら様々な立場で考えをもつことができた。自分の考えを明確にするためにワークシートは有効であったが、多様な見方や考え方を引き出す点では課題があった。

ウ 学習活動の工夫

【自分の考えを明確にもち、互いの見方や考え方を広げる学び合い】

人物を選択し、調べ方を複線化にすることで、一人の人物をじっくり調べ、考えることができた。また、調べた人物が同じグループでの学び合いでは意見交換をしながら考えを深めることができた。さらに、調べた人物が違うグループでの学び合いでも、それぞれが自信をもって調べた内容と自分の考えを述べ有効であった。反面、少人数でのグループでは発表する力に個人差があり、課題が残った。

【児童のワークシートから】

	A児【伊藤博文】	B児【陸奥宗光】	C児【小村寿太郎】	D児【野口英世】	考察
焦点 問題 意識 する	①なぜ軽い罪なんだ。 ・治外法権が嫌だとたくさん日本人が思っただろうな。	①みんな同じ人間なのにそんなことをするなんて、ひどい。 ・不平等条約が改正されてよかった。	①日本人を返せ ・今も昔も日本人は外国の人に認められていないと思う。	①なぜ日本人を助けてくれなかったのか。 ・日本が認められていなかったのが悔しい。	当時の日本人の気持ちを考えさせることで条約の不平等さや改正への願いに共感し問題意識をもつことができた。
課題 を 解決 する	②③憲法で日本に決まり事ができて国内が平和になったから認められたのだ。 ④野口英世は何万人の命を救ったから、日本が世界に認められることに大きく貢献した。	②③海援隊の経験もあり、博文に認められた陸奥が外務大臣だったから日本は認められた。 ④1回目は全員同じ貢献度にした。2回目は陸奥に星を多くぬった。自分が調べなかった人のこともよく分かった。	②③戦争の勝利が日本が認められた本当の原因だと思う。でも、小村が条約改正したこと大きい。 ④小村が不平等条約を改正し、それをしようとした伊藤も貢献したと思う。	②③野口が黄熱病の研究を熱心に行い、亡くなる人が減ったから日本は世界に認められたのでは。 ④伊藤博文がもし、憲法を作らなければ、日本は今も外国に認められずにいただろう。	業績だけでなくエピソードも調べることで人物に感謝したり共感したりして自分の学習問題を解決することができた。グラフ作成を通して外国から認められるためにそれぞれの人物が努力していたことを実感することができた。
自分 自身 の 在り 方 を 見 つ め 直 す	⑤外国に認められたいという願いは、憲法ができたことで叶った。大日本帝国憲法があったからこそ、今の憲法ができたと思う。 ⑥日本は外国に認められるためにも韓国併合をしたのではないだろうか。別の方法はなかったのだろうか。 ⑦日本人は自分の力で時代を変えていった。こうして日本の未来は変わっていくのだ。僕も自分なりに頑張りたい。	⑤治外法権が廃止されたおかげで、今、皆が平和に暮らしています。あなたが命をかけてしてくれたことは全部、今、役立っています。 ⑥世界に認められるための方法の一つとして日本は、韓国併合を行ったと思うが、韓国の人の立場に立って考えることも必要だ。 ⑦これまでの歴史があってこそ、今の日本がある。昔の人に感謝して日本を平和に保ちたい。	⑤寿太郎は、よく頑張ったね。やっぱり誰が一番ではない。4人みんなが一番すごい。 ⑥伊藤が暗殺されたことで、日本は他の国との戦争をふせげたのだろうか。 ⑦日本が他国(欧米諸国)になかなか認められなかったのは悔しい。戦争以外の方法で国力が充実していく方法があったのではないか。	⑤それぞれの努力があつて、世界に認められる日本になった。 ⑥欧米諸国に認められなかった日本は、科学の発展など別のことで認められる方がもっとよかつたのではないか。 ⑦今の日本があるのは、昔の人の努力のおかげ。戦争のない、平和な日本であつてほしい。	これまでの考えをまとめたり、新しい視点を通して考えることで、現在の日本と結びつけてこれからの日本の在り方を考えることができた。しかし、日本が具体的にどのように取り組んでいくか、自分自身がどうかかわっていくかを考えられた児童は少なかった。発問の仕方を工夫する必要があつた。

(5) 考えさせるポイントと考えの深まり

	時	ねらい	他の考えを知る	自分の体験を通して考える	新たな判断基準ができる
問題意識を 焦点化する	①	不平等条約の実態をとらえ、条約改正を願う国民の願いについて考えることを通して、問題意識を明確にもつことができる。	●ノルマントン号事件の風刺画から分かることは何だろうか。 ●なぜ不平等条約を結んだのか。 ●条約改正に向けて日本はどのようなことをしたのだろうか。	●当時の日本人は、どうしたいと考えただろうか。 【学習問題】我が国は、どのようにして外国に認められる国になっていったのか(学習問題に対する個人の予想)	
	② ③	課題を選択して調べ、分かったことに対し、自分なりの考えをまとめる。	●誰がどんな努力をすることにより、日本は外国に認められる国となっていったのか。 A伊藤博文と大日本国憲法 B陸奥宗光と講和条約 C小村寿太郎と講和条約 D野口英世と科学の発達		
問題を解決する	④	国力の充実に向けて努力してきた様々な人物の業績を知り、自分なりの結論を伝え合い、自分なりの考えを深める。	●発表の内容から、国力の充実に貢献した様々な人々の努力を知る。	●自分の考えと友達のことを比較する。	
自分自身 の在り方 を見つめ直す	⑤	国力が充実し、国際的地位が向上した日本に対して自分の考えをもち、これからの自分自身のあり方を見つめ直す。			●国力の充実に貢献した人々から自分自身が学んだことは何だろうか。
	⑥			●外国に認められるようになった日本は、その後どうなったのだろうか。(重工業の発達・韓国併合)	
	⑦			●これからも、日本が世界で認められ続けるために必要なことはどんなことだろうか。	

6 6年分科会 成果と課題

(1) 研究の成果

ア 児童に考えさせるポイントを明確にした学習過程の工夫

児童の思考の過程を予想し、考えさせるポイントと考えの深まりを整理して学習指導計画を作成したことで、児童は自分の考えを明確にもつことができた。

イ 多用な見方や考え方を引き出す教材の工夫

資料の作成では、社会的事象のみにとらわれず、人柄やエピソードを取り入れたことで児童が人物を身近に感じ、興味をもって追究することができた。

ウ 自分の考えを明確にもち、互いの見方や考え方を学び合う学習活動の工夫

学習過程の中に、友達のことを聞き合い、学び合う学習形態を積極的に取り入れたことで、他の考えに共感したり、新たな考えに気付いたりすることができた。

(2) 研究の課題

- ・ 少人数で行う情報交換の際に、自分が調べた人物以外の学習内容も正しく理解できるよう、学習形態を一層工夫する。
- ・ ワークシートの内容を見直し、児童の考える内容がさらにはっきりするように作成する。

(3) 今後の方向性

- ・ 現在の児童の実態をつかみ、仮説の実証を行うためのアンケートを再度実施する。
- ・ 各単元における「自分自身の在り方を見つめ直す」児童の姿をより具体的に予想し、指導計画を作成する。

V 小学校社会科部会全体研究のまとめ

研究主題「社会的事象の意味を考え、自らかかわろうとする児童を育てる社会科学習」を設定し研究を進め、以下の成果と課題を得ることができた。

1 研究の成果

研究主題を実現するための授業づくりを検討する中で、自ら社会にかかわろうとする児童を育てるために必要と考えられる視点を挙げることができた。

○ 自分とのかかわりが実感できる教材・社会的事象の関連を実感できる教材を用意する。

児童は、社会的事象と自分とのかかわりが実感できると社会的事象を自分に関係があること(自分ごと)として捉え、切実感をもったり、追究意欲を高めたりすることができる。4年分科会の実践では、玉川上水を実際に歩き、それが人の力によってつくられたことを知った驚きから、追究意欲を高めることができた。また5年分科会の実践では、実物の自動車を観察したり、ゲストティーチャーの話の聞いたりすることで、自動車生産の工夫や努力を実感し、学習問題を設定することができた。

また、ヒントカードや習熟の程度に応じたワークシート、学習記録の効果的な活用、学習資料の複線化など個に応じた教材を工夫したことで、社会的事象と自分とのかかわりへの興味・関心が高まり、「自分ごと」として意欲的に学習に取り組む児童の姿が見られた。

○ 児童の見方や考え方が広がるような学習過程を設定する。

児童がこれまでの経験や既習事項から価値判断したり、これからの在り方を考える場面を設定したりしたことで、児童は自分の考えを明確にもつことができた。6年分科会の実践では、単元の終末に「これからの日本の在り方」を考えさせる場面を設定したことで、これからの社会に参加しようとする意欲が感じられた。また、児童に自分の考えの変容を感じさせる手だてを行ったことで、自分の考えを振り返り、考えを深める姿がみられた。5年分科会の実践では単元を通して「車のイメージアンケート」を行うことで、自分の立場をはっきりさせ、討論会に臨むことができた。さらに、情報交換の場を設定したり学習内容に応じて学習形態を工夫したりすることで、新たな考えに気付いたり、自分の考えに自信をもったりすることができた。

2 研究の課題

「社会に自らかかわろうとする児童の姿」は様々であり、明確にすることは難しい。しかし、教師が児童にどのような力を身に付けさせ、何を考えさせたいかを明確にした授業実践を積み重ねることで、これからの社会に主体的にかかわろうとする児童を育てることができるのではないかと考える。

また、一つの単元で完結するのではなく、同学年や異学年の単元構成も視野に入れ、児童が比較して考えたり、関連付けて考えたりできるような単元を作っていく必要がある。

3 今後の方向性

今後は、他の単元でも授業実践し、今年度実施した指導の工夫が有効であったかを検討していきたい。また、自ら社会にかかわろうとする具体的な児童の姿を明らかにしていくとともに、発達段階を踏まえた系統性も考えていきたい。

平成17年度 教育研究員名簿（ 小学校社会 ）

	地 区	学 校 名	氏 名
4 年 分 科 会	葛 飾 小 金 井 大 田 北 江 戸 川	小 松 南 小 学 校 東 小 学 校 六 郷 小 学 校 柳 田 小 学 校 上 小 岩 小 学 校	○ 小 林 祐 一 ◇ 大 久 保 由 貴 菊 池 奈 緒 子 高 月 宏 幸 金 谷 圭 介
5 年 分 科 会	渋 谷 杉 並 中 央 江 東 中 野 豊 島 板 橋 足 立 八 王 子 町 田	幡 代 小 学 校 高 井 戸 小 学 校 泰 明 小 学 校 第 三 大 島 小 学 校 上 鷺 宮 小 学 校 富 士 見 台 小 学 校 高 島 第 一 小 学 校 五 反 野 小 学 校 浅 川 小 学 校 町 田 第 三 小 学 校	◇ 西 村 綾 乃 ◇ 澁 谷 あ ゆ み 小 林 浩 二 小 坂 美 智 子 博 多 正 勝 森 田 千 津 子 野 崎 徳 道 田 中 琢 也 長 崎 将 幸 岡 村 繁
6 年 分 科 会	世 田 谷 三 鷹 江 戸 川 福 生 武 蔵 村 山	松 沢 小 学 校 第 六 小 学 校 大 杉 小 学 校 福 生 第 三 小 学 校 第 三 小 学 校	◎ 栗 林 大 輔 ◇ 清 水 優 子 佐 伯 美 香 韭 沢 智 子 小 野 田 吉 克

◎世話人 ○副世話人 ◇分科会世話人

担当 東京都教職員研修センター統括指導主事 寺島 一之
指導主事 小島みつる

平成17年度教育研究員研究報告書

東京都教育委員会印刷物登録
平成17年度 第12号

平成18年1月16日

編集・発行 東京都教職員研修センター
所在地 東京都目黒区目黒一丁目1番14号
電話番号 03-5434-1974

印刷会社名 株式会社 今 関 印 刷